



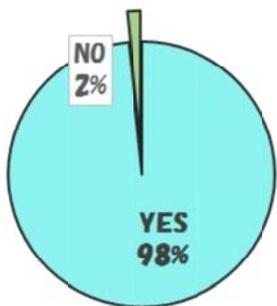
第4号  
2016 6 21  
新聞部速報  
編集  
長崎工業新聞部

18歳選挙権号

# 目指すは明るい未来 ～18歳からの社会参加

投票に「行くと思う」5割は多いか、少ないか。

3年生18歳選挙権アンケートその1



公職選挙法の改正により、選挙権が十八歳以上の国民に与えられました。十八歳以上ということは私たちが高校生、特に三年生には深く関係が出てきます。七月に行われる参議院選挙に向けて、長工三年生にアンケートを実施しました（総回答数は三〇九です。協力して下さった生徒の皆さんありがとうございました。）

Q1 十八歳選挙権について知っていましたか。

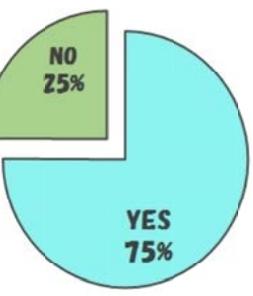
九八%の人がYESと回答。ほとんどの人が知っていたということです。まだ知らなかったという人もいたようです。テレビのCMのように大々的に十八歳選挙権について

日本には、投票を必ず行わないと処罰を受けるという法律はありません。選挙権は「権利」です。

広められていないので、仕方ないという意見も。しかし、これだけ多くの人が知っていたということは、私たちが自分たちが今どういう立場に置かれているのか把握できているといえます。

Q2 投票は必ず行うべきだと思いますか。

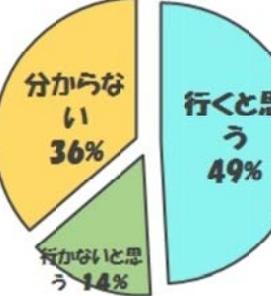
過半数の人が行うべきと回答。反面、NOと答えた人が二五%。その理由としては「強制ではない/大人でも行ってない人がある/面倒だから」などが挙げられています。



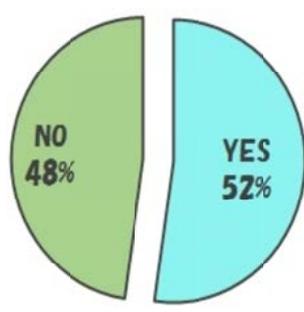
どのように捉えるか、もう一度改めて考えてみたいところです。

Q3 選挙になったとき、投票へ行くと思いますか。

行くと思う人が半数、行かない人が十五%、分からないが三六%という結果でした。この結果をみると、まだまだ意識が十分に高まっているとはいえないようです。例えば、校内に投票を進めるポスターなどを掲示することによって、自然と意識をしていくようになるのではないのでしょうか。



Q4 ネットやラジオなどで立候補者の演説を聞いたことがありますか。



半々に割れる結果となりました。選挙演説といえば、朝早くや夕方頃に選挙カーや街頭演説を行っている姿を目にします。今やネットを通じて意見を送受信することができるといえる時代。せっかく、手軽に情報を得られるようになったのですから、私たちの身近にあるスマホやパソコンで、「党政策」のように検索することをお勧めします。

Q5 あなたが投票する時、その基準は何ですか。政策/演説の内容と答えた人が八割。次いで、雰囲気が一割五分でした。一方で、「税金を私利私利に利用しない人」との回答も

あり、相次ぐ税金の私利私利に対する目は厳しいようです。私たちはこれから、税金を納めていく立場なので、管理をきっちりしてくれないと話になりませんか。

## 終わりに

投票しないことには変わりません。それこそ当選者たちのやりたい放題です。

若者の投票率が低ければそれだけ私たちに関わりの薄い政策が進んでいくことでしょうか。そんな未来でいいのでしょうか。投票したからといって終わりではありません。新たに、どうして欲しいのかを私たちが訴えていかなければなりません。それが、私たち若者に課せられた義務ではないのでしょうか。

## 編集後記

今号は、迫る参議院選挙に関する内容をお届けしました。今月二二日が公示日。各党の公約も示されます。じっくり考えて票を投じましょう。





